（４）②様式第４号－２（報告書）

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。
※必ず A３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

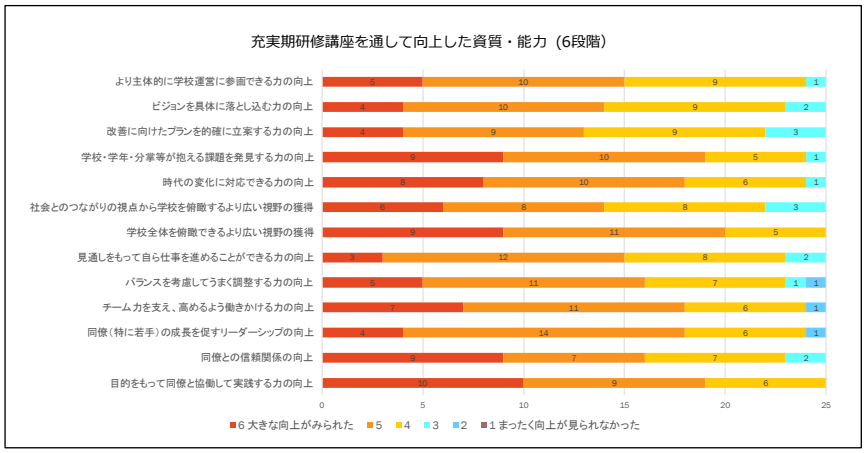
NITS・教職大学院等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 弘前大学教職大学院主催　青森県教育委員会共催
	事業名：　NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業
	研修等名：【NITS・弘前大学教職大学院コラボ研修】 令和４年度充実期研修講座「組織で解決する力を伸ばす ―チーム学校を支えるスクールリーダーのために―」
	開催日時：４月　ガイダンス及び最新の教育事情に関わる講義を配信（オンデマンド） 各自勤務校で、NITS 研修動画シリーズの「学校組織マネジメント」の 回を視聴、ワークを実施 5 月 10 日(火)15～16 時　　受講生顔合わせ（オンライン） 5 月 17 日(火)・19 日(木)・24 日(火)【選択】 第１回協議（オンライン） 6 月 16 日(木)・21 日(火)・7 月 5 日(火)【選択】 第２回協議（オンライン） 7 月 26 日(火)　　第１回集合研修（於：弘前大学） 8 月 4 日(木)・18 日(木)・25 日(木)【オプション・選択】 昨年度受講者の実践事例を踏まえたコンサルテーション（オンライン） 10 月中　全８回【選択】 教職大学院教員によるコンサルテーション（オンライン） 11 月 24 日（木）　　第２回集合研修（於：弘前大学） 開催場所：弘前大学（青森県弘前市文京町１番地）及びオンライン 参加人数（総数）と参加者の属性： 30 代後半～40 代の県内公立学校教員（教諭・養護教諭等）で所属校校長の推薦する者２６名（小学校７人、中学校４人、高校８人、特別支援学校７人）が継続参加、実践事例コンサルテーションには教職大学院生８人も参加

内容： 青森県の育成指標の充実期教員に求められる「マネジメント力」「指導力」の伸長を目的とする講座。

4 月～11 月の長期にわたる研修で、教職大学院教員のコンサルテーションを受けながら、実際に勤務校の改善に資するアクション・プランを立案、実施する。
講義内容：「令和の日本型学校教育と Learning Compass 2030」
「インクルーシブ教育システムにおけるマネジメント」
「子どもの家庭の背景と外部連携」
「組織の協働とリーダーシップを考える」
ワーク内容：勤務校の内外環境の分析ワーク、人材が育つ学校づくりワーク、アクション・プランの策定と協議
コンサルテーションを受けながらのアクション・プランの実施・報告・協議、
グループワーク「ミドルリーダーとして組織を動かすときに大切なこと」「省察」

成果： 参加者による自らの資質・能力の自己評価は次のとおりである。

また、事前・事後の「仕事への意識」の平均を t 検定で確認したところ、統計的に有意な水準で、指導助言や校務分掌の運営等についてどう取り組めばよいかイメージが持てるようになり、また、仕事に追われている負担感は軽減されていた。
　勤務校の校長アンケートでは、資質向上について６段階で平均５．３９と高く評価され、特に勤務校の実践とリンクし、学校全体に好影響を方得る研修である点、オンラインが多く負担が少ない点が評された。



参加者の声：
●これまでは言われたこと、命じられたことをこなすというのがほとんどだったので、ミドルリーダーとして学校の課題解決に主体的に取り組むというのは本当に良い経験になった。ある問題に対して原因や改善方法を考えるようになったし、自分で働きかけるようになった。大きな変化だと思う。（高校）

●はじめは勤務校の先生方が動いてくれるかどうか不安でしたが、動き出すと段々と研修の輪が広がっていき、目に見えて雰囲気が変わってきました。この研修を通して、「ミドルリーダーとして実際に組織を動かせるのだ」という経験をしました。（中学校）
●この研修で、講義・コンサルをしてくださった弘前大学の先生方、そして他校種の先生方と話すことで、とにかくやってみよう、ダメだったら修正してまたやってみようという「折れない心」が知らなううちに身に着いたかもしれません。このアクション・プランでの成果は、満足のいくものでした。これからも続けていきます。（小学校）
●研修を通し、本校の課題をより俯瞰的にとらえることができるようになり、その原因を分析したアプローチをしたり、同僚に援助を求めたりできることが増えたと感じています。普段から意識してコミュニケーションをとることで、「学校チーム」のハブとして、ベテランと若手をつなぐ役割を果たしていきたいと思います。　（特別支援学校）

アイディアや工夫したこと：①最新の教育事情に関する情報を提供する。

②参加者自身が、自らの勤務校の状況を分析し、アクション・プランを考え、周囲と対話しながら実践する。
③その過程を、協働的な省察や教職大学院教員のコンサルテーションによって支援する
④校種を混合することにより、自らの実践現場を相対化し、俯瞰的に見る力を養う。
⑤Off-JT と OJT を効果的に連関させ、オンラインを多用し、集合研修を 2 日に抑える

＜写真・図など＞

集合研修

オンライン協議

アクション・プランの検討

アクション・プランの報告

ミドルリーダーとして組織を動かすときに大切なことを、協働して考える